

第116回古民家歴史部会歴史探訪

「東海道の宿場探訪シリーズ・第11回」

平成29年4月5日(水) 「戸塚宿(1)」

*集合：JR戸塚駅東口、保土ヶ谷駅東口行バス④乗場

(1)行程：下記探訪先に同じ

(2)食事場所：自由行動

(3.)探訪先：「神奈川の宿場を歩く」、「東海道五十三次ハンドブック」等を参考にした。

戸塚駅東口=(バス移動)=ポーラ前(バス停)下車・スタート

- ① 王子神社：祭神は後醍醐天皇の皇子・護良親王。親王の首級が本殿下に葬られたと伝えられている。父後醍醐天皇の鎌倉幕府打倒に尽くしたが、鎌倉に幽閉され、足利直義に弑(しい)された悲劇の皇子だ。
- ② 大山前不動：江戸時代の大山詣での大山道入口。御堂には正徳3.(1713)年建立の不動明王像が祀られている。お堂の前には「従是(これより)大山道」と刻まれた道標や、庚申塔などがある。
- ③ 護良親王首洗い井戸：言い伝えでは、鎌倉で弑された御首を側女が夜中に盗み取って、これを奉じ、当地の豪族斎藤氏に救いを求めて難を逃れ、この井戸で御首を洗い清めたと言われている。
- ④ 鎌倉ハム発祥斎藤家：明治10年頃、英国人カーチスが柏尾村に外国人用のホテルを建て、お客に供するハムを作り、明治20年頃、地元の斎藤満平等がカーチスから製法を学び、ハムの製造を始めた。煉瓦造りの建物は大正7(1918)年に建造され、2階はハムの仕込み室だった。
- ⑤ 五太夫橋：長さ2間、幅2間半の土橋だが、小田原北条氏の家臣であった石巻五太夫が、天正18.(1589)年北条氏滅亡後に、江戸へ移る徳川家康を、この辺りで出迎えたことから名付けられたと伝えられている。
- ⑥ 宝蔵院：真言宗の寺。本尊は不動明王で、境内には地藏堂、日本舞踊芸道精進塚などの石造物がある。
- ⑦ 江戸方見附跡：戸塚宿の江戸側の出入り口で、参勤交代の大名らを、宿役人がここで出迎えた。
(ウラへ)

- ⑧東峰八幡：永久2.(1114)年に創建され、明和2.(1765)年に現在地へ遷座した神社で、吉田町の鎮守。源義家が奥州へ赴く途中、拝殿前にある椎の大木に馬をつないだという言い伝えがある。
- ⑨妙秀寺：日蓮宗の寺。本尊は釈迦如来。境内には戸塚の浮世絵師・歌川広重の「東海道五十三次乃内戸塚」に描かれている吉田大橋の絵の道標が移されている。
- ⑩宝蔵院観音堂：⑥宝蔵院の観音堂がここにある。小さなお堂だ。
- ⑪吉田一里塚跡：江戸から十里目の塚跡で、案内杭標がここに建っている。
- ⑫吉田大橋：歌川広重の「東海道五十三次乃内戸塚・元町別道(わかれみち)」で有名な絵に描かれている戸塚を代表する場所の一つ。橋の四隅の欄干にそれぞれ4枚の絵が掲示されている。現在の橋は昭和61(1986)年に架け替えられたもので、両側に大名行列が持つ毛槍(けやり)を模した街灯が建っている。
- ⑬善了寺：天福元(1233)年江戸麻布善福寺の僧・了全が開山した浄土真宗の寺。本堂の前には親鸞聖人像がある。本尊は蓮如作と伝えられる阿弥陀如来像がある。

(本日の行程は、以上。 ここから戸塚まで近いので歩く)

東海道歴史探訪11

戸塚宿(1)

2017.4.5

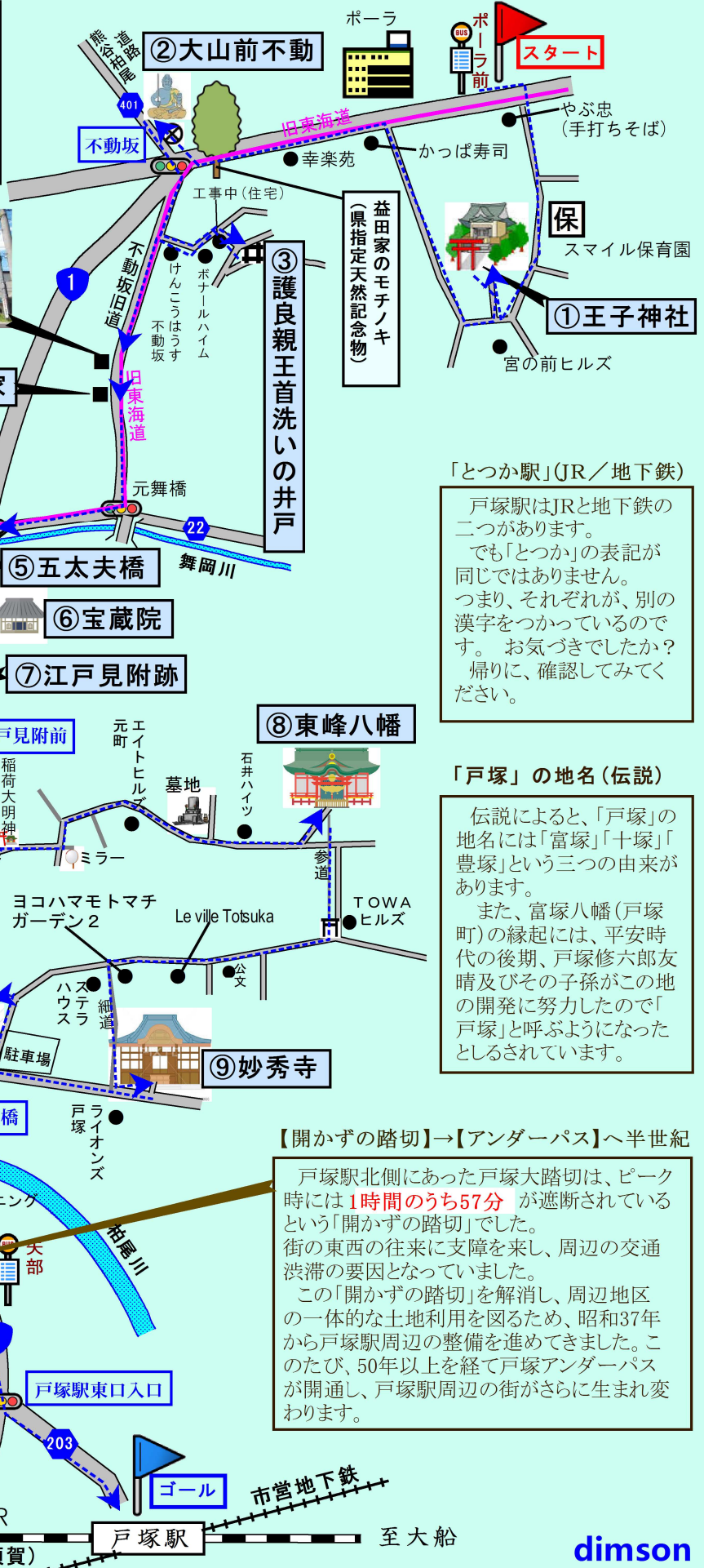


鎌倉ハム倉庫

④ 鎌倉ハム発祥の斎藤家



ブリジストン工場



「とつか駅」(JR/地下鉄)

戸塚駅はJRと地下鉄の二つがあります。でも「とつか」の表記が同じではありません。つまり、それぞれが、別の漢字をつかっているのです。お気づきでしたか？ 帰りに、確認してみてください。

「戸塚」の地名(伝説)

伝説によると、「戸塚」の地名には「富塚」「十塚」「豊塚」という三つの由来があります。また、富塚八幡(戸塚町)の縁起には、平安時代の後期、戸塚修六郎友晴及びその子孫がこの地の開発に努力したので「戸塚」と呼ぶようになったとされています。

【開かずの踏切】→【アンダーパス】へ半世紀

戸塚駅北側にあった戸塚大踏切は、ピーク時には**1時間のうち57分**が遮断されているという「開かずの踏切」でした。街の東西の往来に支障を来し、周辺の交通渋滞の要因となっていました。この「開かずの踏切」を解消し、周辺地区の一体的な土地利用を図るため、昭和37年から戸塚駅周辺の整備を進めてきました。このたび、50年以上を経て戸塚アンダーパスが開通し、戸塚駅周辺の街がさらに生まれ変わります。